

＜新木場＞気になるスポット 「商工中金 新木場営業所」

今回の気になるスポットは、商工中金 新木場営業所です！

中金さんにご寄稿をお願い致しました。

なお、取材には月報委員（渡辺副委員長、関野副委員長、大西委員）と事務局の計4名が訪問致しました。

こんにちは。商工中金です。新木場センタービルの1階に商工中金の新木場営業所があるのは、皆様ご存じですね。ただ、4年前に新木場支店が新木場営業所が変わってから、そういえば営業所にはまだ行ったことないな、という組合員の方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そこで今回は、組合月報の「気になるスポット」をお借りして商工中金新木場営業所を紹介させて頂くことになりました。しばしお付き合いください！

4月11日金曜日、4名の月報委員の皆様にご来店頂きました。支店長の町田と所長の福島が、まずは応接室でご挨拶。応接室の壁にある、昔の新木場の航空写真をご紹介しますながら、暫し昔話に華を咲かせました。貯木場一面に丸太が浮かぶ新木場の原風景。今のからっぽの貯木場とは、全く違ってきますね。

商工中金新木場営業所では、新たに新木場に配属になると、まず真っ先にこの写真を見せて、新木場の歴史を学んだ上で業務に臨むようにしております。



所長福島(左)・支店長町田(右)



応接室にある「貯木場に一面の丸太」写真

次に、応接室を出て改めて正面のカウンターへ。カウンターの下に、木で出来た看板を並べています。これは新木場営業所の女性社員達が、木と暮らしのふれあい展にお邪魔した際に作ってきた作品です。カウンターの木目にピッタリだなと思い、飾ってあります。

中央の2つが一昨年、両脇の2つが昨年の作品です。2年かけて大分賑やかになったのですが、今年も参加予定なので飾るスペースをどうするか考えないといけないですね。

因みにカウンターの脇に置いてある木製の傘立ては、男性社員の作品です。こちらも結構いい出来なのですが、実は雨の日はご来店されるお客様が少なくなる傾向にあり、さほど利用されていないというのが現状です。是非、雨の日にもお越し頂き、傘を置いて下さい！



女性社員の作品



傘が恋しい傘立て

さて、カウンターの左には、新木場営業所で大活躍の伝言板「きえすぎくん」があります。これは、組合員である細田木材工業株式会社様の製品で、木材のボードなのに、ホワイトボードのようにマジックで書いたり消したりできるという優れものです。

普段は月替わりで3択のクイズを出題していますので、ご来店の際は是非挑戦してみてください。正解者には豪華景品・・・はありません！



きえすぎくん

ただ、この日の「きえすぎくん」には「向殿社長の作品展開催中」とあります。実はこの時、応接スペースを利用して、組合員である秋川木材株式会社向殿社長の作品展を開催しておりました。向殿社長の水彩画は、この月報で皆様お馴染みですよ。実は所長の福島が向殿社長の挿絵のファンで、毎号月報が届くと真っ先に挿絵を探すほどなのです。向殿社長の作品をもっと広く新木場のお客様にご覧頂きたいと考え、原画の提供をご依頼したところ、快くお貸し頂き実現しました。日刊木材新聞にも取り上げられ、ご来店頂いたお客様にも大変好評でした。

実際に原画を見ると、非常に繊細なタッチ、淡い色使い、季節感溢れる構図。とても味わい深いです。そしてプロフィールを伺ったところ、向殿社長は一級建築士の資格をお持ちだとか。向殿社長の多才さに驚くばかりです。

因みに、作品展は期間限定で、これを皆様にお読み頂く頃には終了してしまっていますが、皆様のアンコールがあれば、第二弾の開催もあるかもしれません！



向殿社長の水彩画の数々

続いては、センタービルの地下駐車場へ移動して、我々の営業車をご覧頂きました。新木場営業所の営業車2台、これに「木力」のステッカーを貼らせて頂いています。我々が新木場内外をこの車で走り回ること、少しでも「木力」のPRになればと思っています。

実は、「木力」のステッカーを貼って無茶な運転はできないということで、社員の安全運転の意識もより高まる、という効果もあったのです。

「木力」の力、侮れません。

もちろん、広告費は一切頂いておりません！



「木力」ステッカーの貼られた営業車
左から所長福島、大西委員、関野副委員長、渡辺副委員長

そして最後は再び営業所に戻って、社員一同記念撮影。支店が営業所になって4年。かつての支店と異なり、店頭で直に対応出来た業務が深川支店に移ってしまったりと、皆様にはご不便をおかけする場面もある訳ですが、我々営業所員一同、新木場・木材愛を胸に、日々の仕事に励んでおります。

最後に支店長の町田から、皆様へご挨拶申し上げます。

新木場・深川支店長の町田です。日頃から問屋組合様並びに組合員の皆様には大変お世話になっております。改めて厚く御礼申し上げます。

さて、少子高齢化やデジタル化、業務効率化により、商工中金のみならず銀行業界全体が非対面取引（インターネットバンキング等ペーパーレス化）へ移行するという大きな流れは確かにあります。一方で我々が新木場に営業所を構え、所員7名を常駐させている意義は何か。それは商工中金が新木場を大切にし、この地の企業の方々とともに歩んでいくということです。新木場は常に変化し続けています。かつての製材業から多様な木材利用を提案する情報発信拠点へと進化しています。又、恵まれた立地を活かした不動産事業も盛んです。新木場には次世代を担う若い経営者の方も多くいらっしゃいます。これから新木場はもっともっと成長していくと確信しています。それをこの地に拠点を構える我々が今後もお手伝いをさせて頂きたい。我々はこの地に根差して、皆さんとともに汗をかくつもりです。これからも、新木場営業所をよろしくお願いいたします。



左後列から、長谷川、支店長町田、課長藤田、伏見、所長福島 左前列から小沼、木村、立石